

『看護教員ハンドブック』 ポイントをギュッと凝縮！ 看護教員必携の1冊

古橋洋子編

定価：本体 2,400 円 + 税／発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



今や、4年制の看護大学は210校を超え、短期大学、専修学校を合わせると759という数の看護基礎教育機関があり、4年制大学の新設も続くことが予想されます。年度末のこの時期には、あちこちで教員の確保について頭を痛めているという話が流れてきます。「新任教員が定着しない、教員の教育方法がわからない、看護教員としての自分の目標がわからない、他の学校ではどうなのだろうか」などの悩み、そしてなんとと言っても、臨地実習指導に悩みを抱えている方に読んでいただきたい本です。何らかのヒントが必ずつかめることと思います。

冒頭は、看護教員として最低限わかっておきたい仕事内容を、その根拠となる法律や指定規則、設置基準などを引用し示してあります。この部分だけでも新任教員向けのオリエンテーションに有効です。担当されている方は「こんな1冊がほしかった！」と実感されることでしょう。

構成を紹介しますと、1章：教員の組織と役割、2章：カリキュラムから授業の実施まで、3章：看護学実習を指導するための基礎知識、4章：看護教員にとっての研究、5章：押さえておきたいコミュニケーションの技法となっています。

いい学生を育てるにはいい教員が必要ですが、いい教員とは学生の力を認め伸ばせる教員であると思います。とりわけ臨地実習の場での教育力は

重要ですが、教員の醍醐味でもあり悩みどころでもあります。その実習指導についてのさまざまな工夫から学生とのコミュニケーション、臨床とのコミュニケーション、カンファレンス、時に起こるクレームやヒヤリハット時の対応に至るまで、ページを割いて幅広い角度から記しています。

対応の少しの差が大きな影響となって表れることもあるのが臨床現場の特徴です。微妙なコミュニケーションについてもポイントを押さえて簡潔に書かれてあります。本書は、編者の古橋先生の長年の教育経験からあぶり出された臨地実習成功の鍵となるエッセンスがギュッと詰まった良書であると思いました。

このように臨地実習のみならず日常の講義演習の準備実施から研究への取り組みに至るまでを網羅していますので、これから教育に入ろうと思っている方や教育経験の少ない方にとっても、活用できる情報が満載の書です。看護教員としてある程度の経験を積まれた方には、自分の足元の確認や後輩の指導に役立つことでしょう。

とにかく要点がコンパクトにまとまっています。読みやすく、手に取りやすいサイズです。ぜひ、ご一読ください。